

# 教科等研究会（中学校道德部会）

## 平成30年度 研究活動のまとめ

### 1 研究テーマ

わかる ひろがる 深まる 道德授業のあり方  
 ～ 認め励ます評価を目指して ～

### 2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	内容	期日	場所	授業者	期日	場所	内容
6/5	8人	嘉島中	8/21	嘉島中	研修会	10/1	広安西小	赤星静香教諭	1/25	甲佐中	まとめ

### 3 研究の概要

#### (1) 研究の内容

本年度の上益城郡教科等研究会全体テーマ『児童生徒一人ひとりが輝く「分かる・できる」「楽しい」授業づくり』を受け、本部会では、道德の時間において生徒が「分かる・できる」授業とはどのようなものかを検討した。討議の中で、これからの道德教育では、道德的な事柄を単に「わかる」だけでは不十分で、その道德的知識を実生活に「ひろげ」、自己の課題を発見して主体的・協動的に探求して解決する中で、学びの成果を具体的な道德的実践へと発展していく「深まり」が求められるのではないかという結論に至り、本部会の研究テーマを「わかる ひろがる 深まる 道德教育のあり方」に設定した。

また、サブテーマを～認め励ます評価を目指して～とし、平成31年度から完全実施される「特別の教科 道德」を念頭に置きながら研究を進めた。

#### ① 教師の実践力を磨く研修

夏季休業中の研修では、熊本県教育庁教育指導局義務教育課小原ひとみ指導主事に、「特別の教科 道德」の指導と評価と題して、「道德科における主体的、対話的で深い学び」と「道德科に求められる評価」について講話をいただいた。

講話の中で、「道德科における主体的、対話的で深い学び」とは、道德的諸価値についての理解をもとに、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の人間としての生き方についての考えを深める学習であることを確認した。そのためには、様々な事柄に対して問題意識を持ち、自分との関わりで捉えて考えることや自らを振り返ること（主体的）、物事を多面的・多角的に考えること（対話的）、人間としての生き方について考えを深めること（深い学び）が、道德科の授業づくりにおいて大切であることを共通理解した。

まず、問題意識を持つことについて、問題意識とは道德的価値に根ざした問題であり、単なる日常生活の諸事象とは異なるものである。具体的には、子どもの身近な問題や社会的問題、授業で扱う教材の中に描かれている問題、学習課題などの投げかけに対して問題意識を持つことが重要であることがわかった。

次に、自分との関わりで捉え、考えるということについては、日常生活の経験や共通体験を想起し、読み物教材の登場人物の心情理解のみに終始しないことが大切であると確認できた。

また、物事を多面的・多角的に考えるとは、道德的価値の多様性に着目させ、様々な角度から総合的に考察することであり、生徒同士の対話や教師・先哲の教え、専門家や保護者、地域住民との対話などがあることを理解した。

人間としての生き方について考えることについては、これからの生き方への希望や課題を持つことであり、直接道德的行為を求めたり決意表明を強いたりするものではないと確認できた。

研修の後半では、「道徳科に求められる評価」について、道徳科の評価の意義や評価に対する基本的な態度、評価のあり方などについてお話しいただいた。道徳科の授業における児童生徒評価の視点について、授業では児童生徒の何をどのように見取るべきなのか、横断的な評価や縦断的な評価、評価のための具体的な工夫などについて教えていただいた。最後に、演習として具体的な評価の文例から改善が必要な部分を考えることで、来年度からの通知表や指導要録の評価について、貴重な示唆をいただいた。

## ② 小中合同の授業研究会実施

本部会では、小学校と一年おきに研究授業を担当し、互いに意見を交換しながら協議を深めている。今年度は小学校の授業として、益城町立広安西小学校の赤星静香教諭に「新しい道徳6年」の中から「手品師」（内容項目A－（2）正直・誠実）を扱い、研究授業を実施した。「手品師」は、あまり売れない手品師が大劇場のステージに立てるチャンスを捨て、男の子と交わした約束を守るという内容の話である。大劇場のステージか男の子との約束かで揺れる手品師の心の葛藤をしっかりと見つめ、手品師に共感して考えることで、人に対して陰ひなたなく真心を持って接しようとする心情を育むことをねらいとしている。

授業では、本音がなかなか言えず、周囲の目が気になり、考えや思いを発表することに抵抗感を持っている児童の実態をもとに、導入、展開、展開後段でねらいを達成するための手立てがとられていた。具体的には、導入部分で物語の中で一番心に残っているところを確認し、課題意識を高めること。展開部分では、手品師の思いを考える際、児童が考えた思いを道徳的価値に分類・整理することで、多面的・多角的に考えられるように工夫すること。展開後段では、課題意識を高める発問から自己を見つめる過程へ移るときに、自分自身を振り返る時間を設定することなどが挙げられる。

授業研究会では、問題意識を持たせるための発問の工夫や物事を多面的・多角的に考えることができるようにするための発問の工夫、自分を見つめさせる時間と場の設定などについて活発な意見交換が行われた。

## ③ 熊本県道徳教育研究大会（宇城大会）での実践報告

今年度は、熊本県道徳教育研究大会（宇城大会）の分科会で、中学校1年生部会において御船町立御船中学校の岩野靖教諭が実践発表を行った。具体的な発表内容については、4実践事例（1）に示す。

## ④ 「特別の教科 道徳」の実施に関する指導者用リーフレットの作成

平成31年度からの中学校における「特別の教科 道徳」の実施に向けて、郡内の先生方への周知を図る目的で、今年度の研究をもとにリーフレットを作成・配布した。リーフレットについては、4実践事例（2）に示す。

## (2) 成果と課題

### 成果

- ・夏季研修会では、熊本県教育庁教育指導局義務教育課小原ひとみ指導主事から「特別の教科道徳」の指導と評価についてお話しいただいた。来年度からの全面実施に向けて、効果的に取り組んでいくための様々な示唆をいただくとともに、先生方に向けたリーフレットの作成資料として大いに役立った。
- ・小・中合同の授業研究会を行うことで、それぞれの校種の視点から意見交換ができた。小学校の状況なども聞かせていただき、子どもの発達段階を考慮した授業づくりの参考となった。

### 課題

- ・熊本県道徳教育研究大会の発表では、資料検討のための機会や時間が十分確保できず、発表者の負担が大きかった。今後、負担軽減に向けて計画的に取り組む必要がある。
- ・部会員の先生方の協力により、リーフレットを作成することができた。今後、各学校の道徳担当者を中心に校内研修などで活用し、取組をさらに進めていかなければならない。

#### 4 実践事例

- (1) 熊本県道徳教育研究大会（宇城大会）中学校1年生部会における実践発表（御船中学校）  
（第59回熊本県道徳教育研究大会（宇城大会）大会要項より抜粋）

##### 1 研究主題

主体的に考え、よりよく生きる生徒を育む道徳教育を目指して  
～自分との関わりで考え、対話を通して深める道徳の時間の授業づくりを通して～

##### 2 主題設定の理由

本校の教育目標は「郷土を愛し、夢（目標）に向かって、高め合う生徒の育成」である。目指す生徒像として「互いの人格を認め合い、自他を大切にする生徒」があり、本校教育目標の達成に向けて道徳教育の果たす役割は大きい。特に道徳教育を通して、「主体的に考え、よりよく生きる生徒を育む」ことが教育目標や目指す生徒像につながると考える。そのためには、道徳の時間の授業の質的転換が必要であり、「自分との関わりで考え、対話を通して深める」授業づくりが不可欠である。以上のことより、本主題を設定した。

##### 3 研究の仮説

###### (1) 仮説

道徳の時間において、問題意識を持ち、生徒が自分自身との関わりで考える指導の工夫や他者との対話の中で考えを深める指導の工夫をすれば、授業の質的転換が図られ、主体的に考えよりよく生きる生徒が育つであろう。

###### (2) 具体的実践事項

- ①問題意識を持ち、自分自身との関わりで考える指導の工夫
  - ア. 道徳開きの工夫
  - イ. 生徒の体験を生かす工夫（アンケートの活用）
- ②他者との対話の中で考えを深める指導の工夫
  - ア. 思考を可視化するツール（思考ツール）の活用
  - イ. 思考を深める発問（切り返し）
  - ウ. ゲストティーチャーの活用
  - エ. 実態を踏まえた意図的指名

##### 4 研究の実際

- (1) 実践1 「美しく自分を染めあげてください」（廣濟堂あかつき）
- (2) 実践2 「銀色のシャープペンシル」（廣濟堂あかつき）
- (3) 実践3 「吹奏楽部のボランティアスピリット」（自作資料）

##### 5 研究の成果と課題

###### (1) 成果

- ①道徳開きの工夫を行ったことで、内容項目に関する理解が深まり、自分自身との関わりで考える生徒が多くなった。
- ②アンケート結果から、自分の生活を振り返る生徒や一つのことについて、色々な見方や考え方があると感じる生徒が増えた。
- ③思考ツールを活用することで、考えることや話し合うことの目的が明確に也、他者との対話が深まるようになった。

###### (2) 課題

- ①学習過程が固定化されている一面もあり、多様な展開の工夫が必要である。
- ②思考ツールは有効であるが、場面活用と板書との連動については吟味が必要である。

## (2) 上益城郡教科等研究会中学校道徳部会におけるリーフレット作成

上益城の中学校の先生方へ 【上益城郡教科等研究会中学校道徳部会編】

平成31年度から「特別の教科 道徳」が教科書を使用した全面実施になります

### Q 道徳科ってどんな授業をすればよいのですか？

道徳科の目標は、学習指導要領総則に示された道徳教育の目標に基づき、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通じて、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる」です。  
この目標に示された太字の部分が、道徳科の授業の姿になります。

### Q 「考え、議論する道徳」ってどんな工夫をすればよいのですか？

例として、次のような学習活動（指導の工夫）が考えられます。

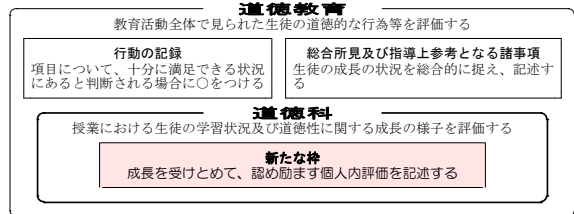
- ◆ **問題意識をもつく主体的な学び**
    - ※ 「問題」とは、道徳的価値に根ざした問題です。日常生活の諸事象とは異なるものです。
    - 生徒の身近な問題や社会的な問題等への関心を高める資料や写真の提示等があります。
    - 授業で扱う教材の中に描かれている問題へ焦点化を図る発問等があります。
  - ◆ **自分との関わりで捉えて考えるく主体的な学び**
    - ※ 生徒が自分の事として考えることです。登場人物の心情理解に終始しないことが大切です。
    - 日常生活の経験や共通体験を想起する発問等があります。
    - 生徒の実態把握を基にした意図的指名等があります。
    - 動作化や役割演技等の表現活動の工夫があります。
  - ◆ **多面的・多角的に考えるく対話的な学び**
    - ※ 道徳的価値の多様性に着目させ、様々な角度から総合的に考察することです。合意形成を目的としたり、絶対的・親念的な指導をしつらするものではありません。
    - 学習形態や座席の工夫、話し合いのルールの確立が必要です。
    - 生徒同士の対話以外に、教師、先哲の教え、専門家や保護者、地域住民との対話もあります。
    - 考える視点を固定しない発問の工夫等があります。
    - 例) 「もし、〇〇の立場だったら、どう考えますか。」「状況が〇〇だったら、どうですか。」「20年後の〇〇だったら、どうすると思いますか。」「」
    - 思考を可視化（見える化）した板書の工夫等があります。
  - ◆ **人間としての生き方について考えを深めるく深い学び**
    - ※ これからの生き方への希望や課題をもつことです。直接、道徳的行為を求めたり決意表明を強いたりするものではありません。
    - 明確なねらいの基に、自らを振り返る発問や話し、手紙、ビデオ視聴等があります。
    - 自らを振り返るための時間と空間を確保する書く活動等があります。
- ◎ 問題解決的な学習や登場人物への自我関与が中心の授業、道徳的行為に関する体験的な学習等、柔軟に考えて、質の高い多様な指導方法の工夫を行いましょ。

### 平成31年度から「特別の教科 道徳」の評価を指導要録に記録します

◎ 平成28年7月通知の参考様式をもとに、平成33年度から様式の変更が予想されます。それまでの期間、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄を区切って記入することになります。通知表の様式や内容、作成の頻度等は、すべて校長が判断するもので規定はありません。

### Q 道徳科の評価は道徳教育の評価とは違うのですか？

評価の公的な文書である「指導要録」の場合



- 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまり（学期ごと程度）を踏まえて顕著なものについて記述します。
- ※ 道徳的諸価値の理解に基づいて、生徒がより多面的・多角的な見方へ発展しているか、道徳的な価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかの視点で評価をします。

### Q 道徳科の評価は、指導要録にどのように記載をするのでしょか？

文部科学省や県教育委員会は文例を示していませんが、参考のために文例を下に示します。文例を示した書籍もありますが、文例に生徒を当てはめて評価することがないよう注意が必要です。

評価記載例  
「登場人物に自分を置き換えて振り返ったり、友達のを聞いて自分の考えを広げることが出来るようになった。」「二通の手紙」の学習では、規則を守るよりも大切なことがあっても、その判断を自分勝手に行うことは問題があることがわかった。」

- 不適当な記載例①「・・・人を思いやる道徳的な心が育ってきた。」
- ※ 道徳科で道徳性評価をすることは困難です。
- 不適当な記載例②「・・・掃除に率先して取り組み、責任をもってやり遂げていた。」
- ※ 道徳科の評価は、道徳的行為の評価をするものではありません。
- 不適当な記載例③「・・・筆手や発言も多く、考えの記述も丁寧になった。」
- ※ 道徳科の評価は、道徳的諸価値の理解に基づき、人間としての生き方について考えを深めている様子を評価します。

◎ 学校や学年ごとに評価のための収集資料や評価方法を明確にしておくことが大切です。

## 道徳科の学習指導の一般的な例（多様な工夫をすることが大切です）

### 導入

主題に対する生徒の興味や関心を高め、学習への意欲を喚起して、生徒一人一人のねらいの根拠にある道徳的価値や人間としての生き方についての自覚に向けて動機付けを図る段階です。

本時の主題に関わる問題意識をもたせたり、教材の内容に興味を持たせたり、効果的な導入を工夫しましょう。

＜実践例＞

- 事前におこなったアンケート調査の結果等の提示
- 資料に関する絵画や写真（スライド）の提示
- 資料場面や主題をイメージする音声や音楽等の視聴
- ※ 道徳科では、『めあて』は効果的な場合にのみ提示します。

アンケート結果の提示

---

### 展開

中心的な教材によって、生徒一人一人が、ねらいの根拠にある道徳的価値の理解を基に自己をみつめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、道徳的価値や人間としての生き方についての自覚を深める段階です。道徳的価値を生徒自身が自分のこととして捉え、道徳的価値を自分の生活に生かそうとする思いや課題が培われることが必要です。

- ◆ **教材を提示する工夫**  
ねらいや生徒の実態に応じて、繰り返したり、部分的に見せたり聞かせたり、精選して情報を提示する等の工夫をしましょう。
- ＜実践例＞

  - 挿絵、紙芝居、影絵やペーパーサートの活用
  - 教師やゲストティーチャー（GT）による朗読
  - パソコン、プロジェクターを利用したスライドショー

- ◆ **発問の工夫**  
生徒の思考を予想し、それに沿った発問や、考える必然性、切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問などを心がけましょう。
- ＜実践例＞

  - 授業のねらいに深く関わる中心的な発問をまず考え、次にそれを生かすために前後の発問を考え、全体を一体的に捉える手順の発問構成

- ◆ **話し合いの工夫**  
生徒相互の考えを深める中心的な活動です。考えを出し合う、まとめる、比較するなどの目的に応じて効果的に話し合いが行われるよう工夫しましょう。
- ＜実践例＞

  - 互いの顔が見える座席配置やグループ・ペアによる話し合い
  - 名前札・色紙の活用や座席の移動などによって一人一人の立場を明確にしての話し合い

教材場面を想起させる写真提示

心情を用いた話し合い

- ◆ **書く活動の工夫**  
必要な時間を確保することで、生徒は自分なりにじっくりと考えることができます。学習の個別化を図り、生徒の感じ方や考え方を捉え、個別指導を進める等の工夫をしましょう。
- ＜実践例＞

  - 手紙形式、漫画の吹き出し形式による書く活動
  - 学習を深め、成長の記録となるノートの活用

主人公と自分を重ねて考えるシートの工夫

---

- ◆ **動作化、役割演技等の生徒の表現活動の工夫**  
生徒が伸び伸びと表現できるよう学級の支持的風土を醸成するとともに、活動を取り入れる目的やねらい達成の見通しをもち、場面設定などをしっかり理解させたうえで活動させましょう。
- ＜実践例＞

  - 生徒に特定の役割を与えて即興的に演技する役割演技
  - 動きやセリフの真似をして理解を深める動作化
  - 音楽、所作、身のこなし、表情等での考えの表現

各班での役割演技によるロールプレイ

---

- ◆ **板書を生かす工夫**  
生徒の思考を深める重要な手掛かりとなるよう、生徒と作る創造的な板書になるよう工夫しましょう。
- ＜実践例＞

  - 意見の違いや多様さを対比的、構造的に示す板書
  - 場面絵や顔絵、心情図などを生かした板書
  - 生徒がカードを貼ったり、意見を書き込んだりできる構成の板書
  - 劇場的・パノラマ的な構成の板書

生徒の考えを道徳的価値で分類した板書

---

### 終末

ねらいの根拠にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認して、今後の発展につなげたりする段階です。

- ◆ **脱稿の工夫**  
話す人の人間性かじみでる脱稿は、生徒の心情に訴え、深い感情を与えることができます。
- ＜実践例＞

  - 校長先生やゲストティーチャー（GT）、担任等による体験談
  - 資料や内容に関わる方からの手紙、ビデオレター
  - ことわざや格言の紹介

担任以外の教職員による体験談

上益城郡教科等研究会中学校道徳部会編